

宮の森公園でザリガニ採り

11月11日(水)・16日(月)～18日(水)

11日に散歩に出かけた時、用水路に“エビがいる！”と見つけたのがきっかけで、そのあと3日間毎日網を手に“ザリガニ採り”に通いました。

暖冬で用水路の水も温み、ザリガニたちもゆっくりしていたのでしょう。「何してんの？」と他園の子どもたちも寄ってきて、網を貸してあげて一緒につかまえ、子ども同士共感し合う姿が微笑ましかったです。

初夏には大きめの真っ赤な王様のようなザリガニでしたが、晩秋につかまえたザリガニはとてもかわいい子どもたちでした。保育園に連れて帰り、乳児たちもタライに手を伸ばして一緒に遊びました。

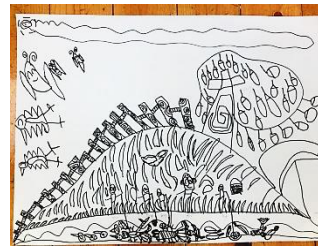
4人の年長児が描いたザリガニ採り体験の画を紹介します。



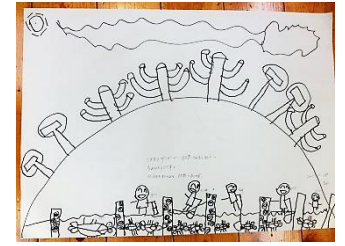
ねこみちゃん(6才5カ月)



けいけん(6才3カ月)



たけみちゃん(6才5カ月)



なみちゃん(6才5カ月)

クリスマス会

12月22日(火)

12月に入り、街も保育園もどんどんクリスマスムードが高まり、当日はみんな元気で迎えられました。クリスマス給食は特別メニュー(ミートローフ、チキンソテー、ポテトサラダ、かぼちゃスープ)でニコニコの子どもたちでした。

お昼寝が終った3:30頃から、ご近所の方々や父母や祖父母の皆さんもいらっやってクリスマス会です。子ども達は歌やリズムを披露した後に、サンタクロースの登場で大盛り上がりです。夢を持ちづらい時代に素敵な夢を運んでくれたサンタさんに感謝です。

その後のコンサートでは、小さなホールに響き渡る素敵なマリンバの音に浸りました。マリンバの音色に、0才の赤ちゃん達4人がそろってお母さんのおひざの上で聴き入っていたのには驚くばかりでした。幸せな時間だったかな？

最後には子どもたちも加わって「闇を切り裂く」「大漁」「あなたが夜明けをつげる子ども達」を歌い、その素晴ら

子どもたちと飾り付けたクリスマスツリー



マリンバと一緒に歌う“大漁”



プレゼント持って
サンタが登場！

深谷市のさくらんぼ保育園と年長交流

12月17日(木)

保育士/林 典子

つばめが、さくらんぼ保育園に子ども(年長児)と一緒に交流に出かけたのは20年ぶりくらいでしょうか。

到着するや否や子ども達は興味津々でさくらんぼや第2さくらを探検です。羊やクジャクなどにも出会い、広大な園庭をつぶさに歩き回っていました。やがて、ホールに集まり、歌とリズムの交流です。さくらんぼ園長の大島さんの穏やかなリードで楽し気でした。つばめの年長4人は、初めてのさくらんぼでの交流にも臆することなく自然体でした。

つばめで楽しんでいる「踊ろう楽しいポーレチケ」と金子みすゞの「大漁」という歌に合わせてさくらんぼの子どもも一緒に踊ったり、手作りの魚を縄で釣ったり、持って行った海の布で遊んだりもしました。なかでも、さくらんぼの子ども達はこの海の布をくぐるのが大変気に入ったようで、「もう一回！」とアンコールがかかるほどでした。

今回の交流会で一番感心させられたのは、さくらんぼの子どもたちの食べっぷりです。お皿いっぱい(山盛りと言ってもいい程です)に、まず茹で野菜を自分で盛り付けていたのです。思わず「こんなにいっぱい食べるの？」と聞くと「そうだよ」と軽くひとこと。そしてそれを平らげると、そのお皿にこれまたいっぱいの煮物。そしてご飯も味噌汁も。食べる意欲は生きる意欲と言われますが、この意欲は、どんなにかこれから生きていく糧になるか計り知れません。そして、こんなにも食べられる身体をしっかりと作っている、さくらんぼの保育は本物だなと感動しました。

子どもを見ればその園の雰囲気や、保育者が何を大事に生きているのかということも見えるものだということが感じられ、同時に私はどうなのかということも考えさせられました。さくらんぼ保育園の皆さんが快く迎えてくださり、食後には前園長の深野さんが、ノルウェーのお話「北風に会いに行った少年」という素話までしてくれました。12月の年長児の集中力も見事でした。我孫子から2時間半と遠いところですが、貴重な体験をさせていただきました。